

お知らせ

◆一緒に講座を作りませんか？

アルザにいがた企画委員 募集中！

市民の皆さんと協働で男女共同参画に関する講座を開催するために、アルザにいがたで主催する講座の企画・運営（内容・講師の検討、講座の準備・司会など）に携わっていただく企画委員を募集しています。

応募要件：市内在住・在学・在勤の18歳以上（高校生不可）で、アルザにいがた主催講座に参加したことがある方（上映会は除きます。）

任期：1年間 ※再任の上限は10年とします。

保育：あり（対象：生後6カ月から就学前まで）

謝礼：1回2,500円（約2時間）、上限30,000円

選考：申込書や個別に面談を実施し、経験などを総合的に判断し決定します。

応募締切：令和4年2月25日（金）必着



※詳しくは、ホームページをご覧ください。➡

◆みんなで広めよう！男女共同参画

アルザフォーラム 2022 実行委員 募集中！

「アルザフォーラム」は、男女がお互いの人権を尊重し、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮できる社会を目指すために、市民中心の実行委員会を組織して開催している市民参加型のイベントです。企画や運営に携わってくださる方を募集します。

応募要件：市内在住・在学・在勤の18歳以上の方（高校生不可）

任期：1年間

保育：あり（対象：生後6カ月から就学前まで）

謝礼：1回2,500円（約2時間）、上限30,000円

選考：申込書や個別に面談を実施し、経験などを総合的に判断し決定します。

応募締切：令和4年2月25日（金）必着



※詳しくは、ホームページをご覧ください。➡

メール配信「アルザ情報」

講座情報等を月1回のペースで配信しています！ぜひご登録ください。



alza@city.niigata.lg.jp

←件名を「アルザ情報希望」としメールを送ってください♪

本文は不要です。受信後、確認の返信メールを送付します。

土日及び祝日を除き、3日後までに届かない場合は、お手数ですがアルザにいがたまでご連絡ください。

情報図書室より メディアリテラシーとジェンダーに 関する本のご紹介



お姫様とジェンダー
アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門
若桑 みどり / 著 筑摩書房

「白雪姫」、「シンデレラ」、「眠り姫」—誰もが知るプリンセス・ストーリーのアニメをジェンダーの視点で見た場合どのような意味が隠されているかを読み解いています。大学でのジェンダー学の講義を基としており、学生の考察が興味深く感じられます。



マンガのなかの<他者>
伊藤 公雄 / 編 臨川書房

本書はマンガには社会の様々な側面が映し出されており、人々の意識やものの見方に深い影響を与えていると述べています。マンガを<他者>という視点からひも解き、時代とともに変化する日本文化を言語論やジェンダー論などから考察しています。



メディアとジェンダー
国広 陽子・東京女子大学女性学研究所 / 編 勁草書房

私たちは日々多くの情報に触れていますが、それらの情報は中立、公正なものでしょうか？本書はメディアによる固定的なジェンダーの側面を批判的に検討し、情報を吟味し判断する力を身に付ける重要性を説いています。



「テレビは見ない」というけれど
エンタメコンテンツをフェミニズム・ジェンダーから読む
西森 路代・清田 隆之・松岡 宗嗣・武田 砂鉄・前川 直哉・佐藤 結・岩根 彰子・鈴木 みのり / 著 青弓社編集部 / 編著 青弓社

テレビの中のバラエティーとドラマに視点をあてて、様々なジャンルで活躍する有識者たちがフェミニズムやジェンダーについて多角的に論じています。時代とともに移り変わるテレビ番組の問題を提起し、その可能性を探っています。



アルザにいがた情報図書室は、
新潟市立図書館のカードで貸出ができます。

開室時間：月曜～金曜 10:00～17:30

休室：土日及び祝日、第1水曜、第4月曜、年末年始、蔵書点検期間

男女平等をともにすすめる情報紙



アルザ



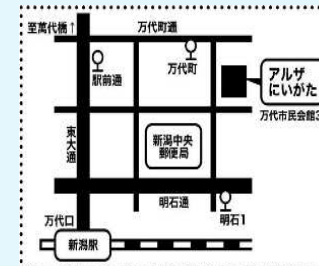
メディアリテラシー と ジェンダー



2022年2月 vol.49

アルザにいがた ～2021年8月に開館30年目を迎えました～

発行／新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」
新潟市中央区東万代町9-1 万代市民会館内
電話：025-246-7713 8:30～17:30 土日及び祝日を除く
URL: https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza/
E-mail: alza@city.niigata.lg.jp



「アルザ」は、「士気を高める」、「高揚」という意味のスペイン語の「alza(アルサ)」が語源。開館5周年の公募で決定、センターが男女共同参画について意識を高める場であってほしいという願いが込められています。



アルザにいがた Twitter
講座情報や新着図書情報、職員が日常で感じたジェンダーに関することをつがやっています。コメントやいいね、お待ちしております♪



情報紙のご意見・ご感想をEメールでお寄せください。



メディアリテラシーとジェンダー

メディアリテラシーとは

総務省ではメディアリテラシーを次の3つを構成要素とする複合的な能力のことと定義づけています。

- ①メディアを主体的に読み解く能力 - その情報が正しいかどうか判断する
- ②メディアにアクセスし、活用する能力 - 目的によってメディアを使い分ける
- ③メディアを通じコミュニケーションする能力

私たちが日々テレビや新聞、インターネットなど様々なメディアに触れながら生活している中で、意識していなくても、私たちの考え方や価値観はメディアに影響を受けています。しかし、メディアは制作者が意図をもって作り上げたものであるため、何かしらの表現が誇張されていたり、一部分だけが取り上げられたりすることによって誤った認識を与えてしまうことがあります。

ジェンダーとの関係

例えば、ドラマやアニメでこんなシーンを見かけたことはありませんか？



仕事から帰ってきた男性が妻に今日の夕飯の献立を聞くという「よくある風景」ですが、ジェンダーの視点で少し立ち止まって考えてみましょう。

スーツ姿の男性が家に帰ってきて、女性は献身的に夕飯を作っている最中ということは、男性はフルタイムで仕事をしており、女性は専業主婦または時短勤務をしているのでしょうか。仕事や家事の分担は多様であるにもかかわらず、限られた時間やスペースの中で情報を発信するメディアは、「よくある風景」を当然のものとして描きます。この風景がパターン化していつも描かれることで、無意識のうちに「男性＝仕事」「女性＝家庭で家事や育児」が当たり前だといった固定的な性別役割分担意識を受け手に与えてしまうのです。そして、これが「普通」だと思い込み、辛くても「男なんだから働かなきゃ…。」「女なんだから家事や育児ができて当然…。」と生きづらさを抱え込みながら頑張り続けてしまいます。

メディアからはたくさんの情報が与えられますが、それが物事のすべてを表しているわけではありません。情報を受け取る一人一人がメディアリテラシーの能力を身に付け、情報を見極めることが重要です。

講座紹介

令和3年10月2日(土)
メディアリテラシーについて考える講座
「アニメに潜むキャラクターからのメッセージ」



横浜国立大学の須川亜紀子先生を講師にお迎えし、オンライン講座(会場参加あり)を開催しました。私たちが普段何気なく観ているアニメから受ける影響、また、アニメはその当時の時代背景の影響を大きく受けていることを、実際のアニメを例に挙げながら、ジェンダーの視点でお話いただきました。今回はその年代ごとの特徴を一部ご紹介します。

1960年代
時代背景…高度経済成長期による性別役割分担の固定化

<p>ヒロイン ⇒弱者(女性や子ども)を悪から守る 例:鉄腕アトム</p>	<p>ヒロイン ⇒魔法の力で困った人を助ける 男性優位社会における一時的な力 例:魔法使いサリー</p>
---	--

1970年代
時代背景…女性解放運動や女性の高学歴化、長期就労化

<p>ヒロイン ⇒少女も戦闘に加わるようになるが 補助的な仕事のみ 例:マジンガーZ</p>	<p>ヒロイン ⇒セクシュアリティ=力が表現される 女性ライバルが描かれる 例:魔女っ子メグちゃん</p>
--	---

1985年 男女雇用機会均等法

1990年代
時代背景…ポストフェミニズム時代「仕事か家庭か」から「仕事も家庭も」へ

<p>ヒロイン ⇒科学技術の進歩により弱者不在 戦う意味が見出せない 例:エヴァンゲリオン</p>	<p>ヒロイン ⇒戦うヒロイン、生き生きとした女性 例:セーラームーン</p>
---	---

1999年 男女共同参画社会基本法

2010年代
時代背景…多様性の尊重、LGBTQ

<p>ヒロイン ⇒戦う理由の多様化 敵にも襲う理由がある 例:ワンパンマン</p>	<p>ヒロイン(?) ⇒ゲイのヒーロー、アイドルを目指す少年 や魔法を使う少年の登場 例:Tiger&Bunny</p>
---	--

当初は男性ヒーローが立場の弱い女性や子どもを助けるという構図でしたが、男性優位の社会に不満を抱えた女性による運動や、男女共同参画をすすめるための法律の制定等もあり、徐々に女性も活躍し始めました。また、近年はLGBTQも取り上げられるなど、各年代の時代背景を踏まえてアニメができていたり、少しずつ男女共同参画が進んでいることが分かりました。これからどんな新しいアニメが出てくるのか、そしてそのときの男女共同参画の状況がどう影響しているかとても楽しみです！

活躍する女性をご紹介します⑱

今回は、お子さんの誕生をきっかけに「ニューボーンフォトレンタルショップ」を立ち上げた中藤陽子さんをご紹介します。

【PROFILE】

新潟市出身。建築設計会社を経て東京表参道のインテリアショップに勤務。パリやモロッコなどで雑貨の買い付けを行う。第一線で活躍する世界中のクリエイターや仲間と過ごした日々は一生の宝物。結婚を機に新潟へ拠点を移し、子どもの誕生をきっかけに『ニューボーンフォト』1歳までの記念セルフフォトのグッズのレンタルショップを立ち上げる。



■起業をしたきっかけを教えてください。

20代から漠然と自分の感性を活かした仕事がしたいと思っていました。子どもの誕生をきっかけに自身が納得のいく記念のフォトを残せなかったという後悔もあり、自分のようなこだわり派のママのために、気軽に気楽に撮影を楽しめるグッズを届けたいという思いから、新生児撮影グッズ一式をレンタルできるショップを立ち上げました。

■起業するときの苦労を教えてください。

資金計画や事業計画を家族に説明し、理解を得ることで。夫はもちろん、近所に住む両親にも相談し、事業をするうえで協力してもらいたい点などを丁寧に説明しました。具体的には、子どもの体調不良のときの手助けや家事に関わる協力などです。日頃はお互いに助け合いながら子育てしていますが、開店直前に子どもが風邪をひき小児科へということがあり、それは自分の中で1番は子ども、2番は家事、3番は事業…という優先順位を再認識させられる出来事でした。事業については余裕を持ちスケジュール組みをすることで、予想外のことが起きても対応ができるようになり、精神的にも安定しました。

■起業してよかったことを教えてください。

心から良いと思えるものを創り出し、家族で特別な撮影をするという思い出の体験を全国の方へお届けできることです。そして、「一生に一度の大切な思い出ができた」、「撮影をしたことで子育てのお守りになった」など嬉しい声を聞くことやりがいを強く感じます。

また、個人事業は安定とは言えない部分が多分にあります。サービスや商品の構築次第で売上アップが見込めることは挑戦しがたいがあり、醍醐味とも言える部分だと思います。販売から売上まですべてわがことなので、自分の成長にもつながっていると思います。

■これから起業を考えている女性にメッセージを

これから立ち上げるビジネスの全体像を考え抜いてスタートすることをおすすめします。特に大切なのは、どのように集客するかという部分だと思います。良いものをつくただけでは誰にも知ってもらえません。「知ってもらう方法」から「知ってもらった後にアクションを起こしてもらう方法」。これからの販売促進の構築は、ある程度知識があった方が近道だと思います。良いものやサービスをたくさん生み出し、お客様や自分に還元するという気持ちやお金の循環はとても幸せなものです。自信をもって前進してほしいと思います！